

2021  
令和3年度



施政方針

与那国町長 外間守吉



## 令和3年度施政方針

---

令和3年第2回与那国町議会（定例会）の開会にあたり、令和3年度一般会計予算案をはじめ、各特別会計予算案並びに諸案件を提案し、ご審議をお願いするとともに、町政運営に取り組む施政方針と、政策の概要を申し上げ、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

### はじめに

昨年来、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスは、未だ収束の兆しを見せず、今年1月に2度目となる緊急事態宣言の期間が延長されるなど、深刻な状況が続いており、本町におきましても感染者が発生する事態となりましたが、町民の皆様のご協力により封じ込めが功を奏し、現在のところ新たな感染者の発生はありません。

また、入域観光客の落ち込み、住民の足となる航空便の減便など地域経済、生活に大きな影響を及ぼしているなか、住民の生活と経済を守るため、町独自の施策として全ての町民への給付金、農漁業者への協力金、観光関連を中心とした事業者への協力金の支給、そして、DiDi 商品券の販売やどなんクーポン券の配布、その他上下水道料金の3ヶ月間無料化など、島内の消費喚起や需要拡大を図り、町民の命と暮らしを守るための様々な施策に取り組んでまいりました。今後とも適時に感染防止、拡大への対応に注力を注いでまいります。

私たちが直面しているこの新しい危機は、日常生活や企業の経済活動などへ多大な影響を及ぼすとともに、人々の価値観や生活様式に大きな変化をもたらしております。

あらためて、町民や事業者の皆様におかれましては、感染拡大防止のため、多大なご協力をいただいていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

とりわけ、医療や保健、介護の現場などで、町民の命と健康を守るために働き続けている皆様や、生活の維持に欠かせない職業いわゆるエッセンシャルワーカーとして私たちの身近な暮らしを支えている皆様に、深い敬意と感謝の意を表します。

対面での交流や移動の制限を余儀なくされる中、これまでの日常のありがたさや、非日常におけるリスクコミュニケーションの難しさを実感するとともに、未だ感染の収束が見えない状況にあっては、引き続き強い緊張感をもって新型コロナウイルスとの戦いに望まなければならないと考えております。

新年度におきましても、町民の皆様の命と暮らしを守り抜くため、感染対策の決め手となる新型コロナウイルスワクチンの接種を一刻も早く実施できるよう万全の体制を整え迅速に実施いたします。

また、新年度は私が町民の皆様から町政の舵取りという大役を仰せつかってから16年目、4期目の最終年となります。

私は、町長就任以来、町民一人ひとりの「安心・安全を守る」「暮らしを守

る」を信条に、様々な行政課題の解決や町民サービスの向上、子供達の教育環境の向上を図る取り組みを進めてまいりました。

しかしながら、これらの取組を着実に前進させている一方で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一旦歩みを止めざるを得なかった取り組みもあり、コロナ収束後にはその歩みを取り戻し、新しい時代に向け、大きな希望を持てるよう前進させていく必要があります。

新型コロナウイルスの感染拡大が引き起こしている多くの困難に対して、本町が一丸となって立ち向かい、必ず打ち克つという強い決意を胸に、町政運営に望んでまいります。

今般、与那国町において平成 23 年に策定しました「第 4 次与那国町総合計画」の改定作業に取り組んでいる途中ではありますが、これまで、「いきいきと働けるまち」「癒しと安心のまち」「人材を育て・つなぐ交流のまち」「循環と共生のまち」「海を守り、支えるまち」「伝統文化に支えられた自治と自律のまち」の 6 つの視点を柱に、重点実施施策の取組を進めてまいりました。

令和 3 年度は、これまで取り組んできた成果、課題をしっかりと検証し、将来目標である 2031 年を見据えながら、エビデンスに基づく政策立案に努め、次の 10 年間に何をなすべきか、時流を捉えつつ、近年、全世界的な指標となっております国連の提唱した“SDGs”（持続可能な開発(成長)目標）の考え方を視野に入れながら多くの町民の皆様のお力添えも賜りながら、「第 5 次与那国町総

合計画」の新たなるステージとなる基本計画を策定して参ります。

政策実現のためには、財政基盤の確立をはじめとした、限られた資源である「ヒト・モノ・カネ」を今後どのように配分するかが重要であります。一昨年より取り組んでおります台湾との間の航路実現に向けて推進する必要があることから、引き続き制度面や財政面において国との協議、連携に積極的に取り組んでまいります。新庁舎建設については幾多の課題がありますが、山積した課題を解決し着工に向けて取り組みの強化や、その他の公共施設の長寿命化の推進におきましても同様に強化してまいります。

町民の暮らしをしっかりと支える中心的な役割を担うのは、行政であり、日頃から町民生活に密接した行政サービスの提供や、産業振興、地域活性化に取り組むべき政策の実行を常に心がけ、私の4期目の任期は最終の4年目を迎えています。町民の生活向上を図ることの集大成として、町民から付託された重責を厳粛に受け止め、町政運営について、次の9つの施策を着実に実行し、町民の福祉の向上と与那国町の持続的発展のため、全力をあげて行財政運営の舵取り役を全うしてまいる覚悟でありますので、議員各位並びに町民の皆様の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、各分野にわたり、順次わたくしの所信を申し上げます。

## 1 産業の振興

### ① 農業の振興

第一次産業である本町のさとうきび振興については、「さとうきび優良種苗安定確保事業」及び「さとうきび採苗圃設置事業」により、優良種苗の確保及び普及を図り農家への肥培管理の徹底、指導、支援により増産に向け取り組んでまいります。

また、生産農家の過重労働を削減するため、令和3年3月1日付けで事業が採択された「さとうきび農業機械等リース支援事業」を活用し、次期操業までにハーベスターの新規導入を行います。製糖工場の操業については、昨年を引き続き、年内操業ができるように働きかけて参ります。

危機的な状況にある水稻の振興については、JA・水稻生産部会・八重山農林水産振興センター農業改良普及課等の関係機関と連携し、抜本的な対策について協議のうえ、水田農業の復興を図ってまいります。

干ばつ対策については、「与那国町干ばつ対策協議会」を適時に開催し、早期に干ばつ対策の諸事業に取り組めます。

今年度も農業生産法人、その他団体が出荷する野菜、果樹、薬用作物の沖縄県内への空路輸送費に対し「農林水産物輸送コスト負担軽減事業」により支援を行います。さらに営農基盤の整備が遅れている状況下、本町の自然環境に適した新たな農作物として、野菜やクシティ（コリアンダー）等の栽培を町内の農業従事者団体を対象に、ビニールハウスにて実証栽培を継続して行い栽培面

積の拡大と加工品の開発等に努めてまいります。

農業振興地域の区域見直し及び営農計画の見直し作業を行い、適切な農用地利用を促してまいります。

新規就農者を手厚く支援するため、年 150 万円を給付する「農業次世代人材投資事業」を継続して取り組みます。また「沖縄県新規就農一貫支援事業」の採択に努めてまいります。

## ② 漁業の振興

小規模離島である与那国町では漁業は重要な産業の一つであります。しかし、近年漁業従事者を取り巻く状況は、高齢化が進むとともに過疎化も進んでいることから、島内外から次世代の担い手を積極的に育成することが極めて重要であります。引き続き「与那国町漁業担い手育成プラン事業」にて漁業従事者団体に支援を行います。新規・既存漁業者に漁業設備の貸出し、漁業経営の安定化を図るため、事業実施に係る費用の 90 パーセントを補助し、本事業の充実強化に努めてまいります。

本町は、遠隔地単独離島であるゆえに水産物の消費・流通に大きなハンデがあることから、漁業従事者団体が出荷する生鮮鮮魚の沖縄県内への空路輸送費に対し引き続き「農林水産物輸送コスト負担軽減事業」により支援を行います。

そのほか、高付加価値化や流通体制の改善、販路拡大、イベントの開催及び商品開発などの漁業従事者の主体的な取り組みを「沖縄県離島漁業再生支援事



業」により支援を行います。

### ③ 畜産の振興

与那国町の和牛生産を推進すると共に、繁殖雌牛の生産基盤の 拡充・強化を促進し、肉用牛の資質向上を図るため「優良繁殖雌牛導入事業」にて畜産農家に優良繁殖雌牛購入費用の 1/2 以内、1 頭当たり 50 万円を上限とし支援いたします。近年、母牛導入価格が高騰していることから、畜産農家の更なる負担軽減を図るため、1 頭あたり更なる増額を検討して参ります。

さらに、近年畜産業を取り巻く状況は高齢化及び畜産農家の減少が進んでいることから、島内外から新規就農者の確保及び担い手の育成・支援を図ってまいります。

### ④ 商工業の振興

日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知ってもらう為、県内はもとより県外の物産展などの集客力を利用した出展に支援を行います。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で思うような事業展開ができませんでした。今年度は事業展開が可能な環境が整いしだい感染症対策を施し、特産品の PR を行い県内及び県外への販路開拓を図ります。

「与那国島特産品アピール強化事業」の成果も着実に現れており、毎年開催されている離島フェアや県内外でのその他の物産展は毎回好評を得ております

が、前述したように昨年度の事業展開が出来ない状況でした。今年度は、事業を再開し県内外での物産展開催を予定しております。更に、ふるさと納税の返礼品を通して特産品の認知度向上に努めてまいります。

ふるさと納税の財源により設置された、「ぼんたドゥナン島基金」を活用し、与那国島の地域振興、環境の保全・改善を目的に実施する、「どうなんちまづくり活動」や、与那国町の新たな雇用創出に向けて実施する、「どうなん 活性化事業」を企画する個人や団体、また、地域伝統芸能・文化継承活動に助成を行ってまいります。

本町を代表する伝統工芸品の「花織り」は、約 500 年の歴史があります。その知名度は、県外はもとより県内においても十分とはいえないのが現状であります。伝統織物協同組合を中心として、後継者育成や PR 事業、情報発信及び織物体験など様々な取組みを展開しているところであります。今後は、気軽に機織り体験や与那国花織りの魅力を発信できる観光と結びつけた施設の整備を行います。

伝統工芸館は、平成 29、30 年度において策定した基本計画及び運営計画を基に、令和元年度及び 2 年度は実施設計を行いました。令和 3 年度で施設建設に取り組んでまいります。

## ⑤ 観光産業の振興

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で「日本最西端与那国島国際カ

ジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」が中止や延期となりました。

これまで継続して実施されてきたイベントが開催されなかったことは大変残念でありませんが、今年度は感染症対策を施し、コロナの時代に即した開催へ向けた工夫をし、イベントを再開するとともに、情報発信をしっかりと行うことで、観光客等の誘客と滞在時間長期化の促進に努めてまいります。

島に数多く存在する魅力的な地域資源を活用した新たな観光メニュー開発に取り組み、与那国島の観光価値の向上を図ります。更に、観光地の公衆トイレ改築整備を計画しており令和 2 年度において西崎及び東崎観光地の公衆トイレ改築の実施設計をもとに 3 年度で建設に取り組み、併設する駐車場の拡幅や歩道への手すりの設置等の整備に努めてまいります。

近年の自然災害の多発や航空機等の事故、感染症発生に際し観光客や観光産業に甚大な被害をもたらす観光危機に対応するための観光危機対応計画を策定しましたが、与那国町内において最大の客室数を有するホテルが 3 月末をもって休業することとなりました。このことは与那国町の観光に大きな影響をもたらすことは明白であり、関係機関等と連携、協議しながら早急な事態の解決、収拾を図って参ります。

## ⑥ 交通の確保

島を結ぶ航路・航空路は、住民の生活や地域経済にとって重要な交通手段であり、また都市圏との交流、物流、観光、産業活動に欠くことのできない重要

な役割を果たしております。沖縄県が行う離島住民等交通コスト負担軽減事業の継続実施と拡充に努めてまいります。

現在、与那国空港に就航している琉球エアークミューターの航空機が昨年度新型コロナウイルス感染症の影響で減便を強いられるなど、住民の暮らしや観光に大きな打撃、影響を受けました。今年度は減便の早期の解消を目指して関係機関へ働きかけてまいります。

日本最西端の島として、観光産業の活性化を担うためには、チャーター便の積極的な誘致を図る必要があり、地上支援機材の整備を進め就航率の向上と航空会社の負担軽減に努め、誘客活動を積極的に展開してまいります。

また、町民の生活を支える路線バスを町民の皆様のニーズにお応えし、夜間11時まで運行を延長しております。昨年度予備車両として導入した2台目のバスと合わせて生活路線運行には万全を期し、今後ともバス運賃の無料化を引き続き実施し、運行時間・停留所の変更等に関しましては、航空機の発着時間等も考慮に入れながら暮らしの利便性に添った改定を心掛けてまいります。

## **2 教育文化の振興**

### **① 学校教育の充実**

昨年度、コロナ禍により学校教育も大きく変化しました。従来から言われていた以上に、予測が困難な時代となっています。このような中で、子供たちが変化の激しい社会をよりよく生きていくためには、学校教育をはじめとして、

地域・社会・家庭それぞれの対応が求められています。

こうした課題に対し、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を身につけさせるため、また、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、学校教育の充実は欠かせません。本町においては、「郷土どうなんを拓き、創造的な知性を備えた人間性豊かな人材」の育成が最重要課題となっています。

そのため本町においては、「中学生のジュニア海外語学研修（アメリカ）」や「小学生の台湾花蓮懸小学校へのホームステイ事業」を実施し、子どもたちの夢や将来への希望を培う機会としています。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地派遣が厳しい状況ではありますが、事業実施の実現に向け取り組んでまいります。

また、今年度も外国語指導助手（ALT）を小中学校に配置し、英語や外国の文化に親しむ環境を充実させ、英語力やコミュニケーション能力の向上はもとより、郷土や異文化の理解と尊重を図ってまいります。

学校の ICT 化に関しては、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により「学びの保障」の観点から、ICT 環境整備を大幅に前倒し、クラウド学習環境の構築、児童生徒 1 人に 1 台学習用端末整備、加えて学校 Wi-Fi の増強を図りました。今年度は、安定した学習プラットフォームの運用、家庭での持ち帰り学習環境の整備、そして、急速な ICT 化が進む学校現場への人的支援に力を入れ、教職員が ICT を活用しやすい環境をつくります。

さらに、共生社会の実現に向け、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒へ多様で柔軟に対応するため、「特別支援教育支援員」の配置によるインクルーシブ教育システムの構築、また、「スクールカウンセラー派遣」による教師・保護者・幼児児童生徒への支援及び教育相談体制の充実など、一人一人を大切にした教育活動を推進してまいります。

学校以外の教育の場としては、学習環境、教育内容の島嶼のハンデを補うため、すべての子どもに学びを保障する「無料町営学習塾」を開講しています。単に知識のみでなく、勉強の方法や学び方を身につけさせ、主体的に目標に向かって挑戦する力の育成に努めています。

一方、教育環境の整備については、学校給食の完全無償化を実施している他、教育諸活動に係る児童生徒派遣事業で文化面やスポーツ面における島外派遣の助成を行います。昨年度はコロナ禍で島外における諸行事が中止となりましたが、今年度は従来通り、児童生徒の資質能力向上と保護者の負担軽減を図ってまいります。

検定受検料補助事業では、延べ161名の生徒、延べ265名の児童に対し、英語・数学算数・漢字の3つの検定受検料の助成を行いました。今年度も引き続き助成事業による受検機会の拡充を行い、児童生徒の学習意欲と学力の向上を目指してまいります。

また、「離島高校生修学支援事業」を今年度も継続し、保護者の負担軽減に努めてまいります。

## ② 教育施設の充実

学校施設の整備については、全施設の約5割の建物が築30年以上経過しており老朽化が顕著にあらわれております。特に、ひがわ幼稚園園舎は、建て替えを余儀なくされており、他の2園も含めた新たな幼稚園運営方針を定めるとともに整備計画に取り組みをすべく、安全な教育環境の整備に努めてまいります。

昨年度は、比川小学校のブロック塀安全対策に取り組み工事を実施しております。今年度は、久部良小学校のブロック塀安全対策に取り組み工事を実施し、すべての学校の安全な教育環境の整備に努めてまいります。

老朽化が著しい学校給食共同調理場の移転・建替えについて、昨年度に基本計画の策定を行いました。今年度は、総合食育センター建設に向け実施設計を行い安全でおいしい学校給食の継続実施に取り組んでまいります。

今後、幅広い視点で教育委員会との連携を深め、方向性を共有し、総合的な推進に努めてまいります。

## ③ 文化の振興

与那国島は自然環境的にも文化的にも、非常に特徴のある島です。その魅力は教育や観光に展開させうるポテンシャルを秘めており、与那国島独自の地域資源として、保存と活用を図るための施策を積極的に進めてまいります。

最先端のマルチビーム測深技術を使って完成した海底精密地形図によって、与那国島全周の浅海底の様子が正確にわかるようになり、防災対策、環境保全、

漁業者による海域利用、地質や環境の変遷史、水中考古学など、各方面への活用が期待されています。

すでに水中考古学の分野では、幅広い年代と国内外の様々な地域の大量の錨が発見されており、古来より交易の担い手であった先人達について解明する調査が始まっています。また、太平洋戦争時のものと思われる国籍不明の船の残骸や、砲弾群が海底に多数散布していることも明らかとなりました。

ダイビング関係者や研究者と連携し、これらの水中文化遺産を活用した地域振興に取り組んでまいります。

「埋蔵文化財調査事業」では、令和2年度に引き続き令和3年度も島仲村跡遺跡の試掘調査を進めてまいります。出土した遺物は適切に保管・管理しています。今後は、学校教育や生涯学習の現場で活用していくことを目指します。

「与那国島の断層帯天然記念物緊急調査」によって、サンニヌ台は世界的に見ても保存良好で多様性の高い生痕化石群がみられること、正断層の地質構造を観察できる露頭として日本国内では極めて貴重であることが明らかになりました。地球科学の観点から適切に評価し、教育や観光などの分野で活用するための方策として、国の天然記念物指定に向けて取り組んでまいります。

「むぬい ばちんがしや ちまばちるん。 ちま ばちたや うやばちるん。」  
与那国島の文化を形成してきた根源「どうなんむぬい」は今、まさに消滅の危機にあります。行催事の挨拶での積極的な使用、普及啓発行事の実施、人材バンクの設置及び人材の育成、幼稚園や学校への講師派遣、辞典発刊に向けた研



究者との連携など、これらの取組みを通して、町民が「どうなんむぬい」に誇りと愛着を持ち、家庭や学校、職場などの日常生活のなかで「どうなんむぬい」が使用され、世代を超えて将来にわたり、継承されることを目指します。

また、令和4年度の開室を目標に、町立図書室の設置に取り組んでまいります。地域コミュニティの形成を支援する「交流の場」、どの世代の住民にも平等に図書に触れる機会を提供し、生涯学習の一助を担う「育<sup>はぐく</sup>みの場」、与那国に関する資料を収集・保管し、住民や島外からの来島者に資料の活用を促す「島を知る場」の提供を目指してまいります。

### 3 医療・福祉の充実

#### ① 医療の充実

公益財団法人地域医療振興協会が、平成23年10月より与那国町診療所の指定管理者となり、令和3年度は3回目の更新時となります。診療所運営の安定化を図るため、同協会には指定管理者を継続していただき、住民の健康づくりを推進するため、診療所と行政が連携して健康支援を行う持続可能な体制づくりに努めてまいります。

令和2年12月より限られた医療資源、医療体制を継続して提供するため与那国町全島民が利用できる「オンライン診療」の実証事業が行われました。今後、実証結果に基づき、「オンライン診療」が、継続して利用できるか沖縄セ

ルラー電話株式会社と協議してまいります。

昨年1月より世界中で猛威に感染拡大している新型コロナウイルス感染症は、当町においても感染者が発生しました。しかし、町内の医療提供体制確保を優先しつつ、「新しい生活様式」を実践して、3密を回避し、手洗いやアルコールを用いた手指の消毒、適宜マスクの着用を町民協力のもと行ってまいりました。新年度も引き続き、町民の協力を得ながら新型コロナウイルス感染症予防に取り組んでまいります。

## ② 福祉の充実

産業の活性化を受け経済発展が進む中、住民が安心して住み続けられる町にしていくための生活基盤は、医療・福祉の充実を図ることが最優先課題と考えています。町民が年齢や性別に関係なく、また、障がいの有無に関係なく安心して暮らせる町にしていくため、引き続き地域福祉計画を推進して参ります。

地域福祉は医療・福祉分野を含め、領域も幅広く多方面機関との連携が必要とし、高齢者福祉、児童福祉、障がい福祉分野でも行政のみならず、社会福祉協議会やその他関係機関との連携が必要になってきます。

また、大規模災害発生が相次ぐ近年の状況を踏まえ、避難行動要支援者への支援体制の整備や災害時における支援体制の確立を図ります。

制度のはざまの問題等では、これらを解決していくためにも、CSW（コミュニティーソーシャルワーカー）の存在が必要です。そのためには社会福祉協議

会との連携は必要不可欠となり、今後も CSW の確保に努め町内の人的支援や社会資源を効果的に活用し地域福祉の更なる充実を図ってまいります。

また、地域福祉計画の課題でもある庁舎内の連携では、長寿福祉課と教育委員会との協働により、令和元年度から実施している「ライフセーフティネット事業」の目的とする、(1) 子ども・子育てに関すること (2) 高齢者に関すること (3) 障がい者に関すること (4) 地域住民の健康福祉に関することなど「地域をつなぐ」事を念頭に、双方の部局が関わる共通点を縦割り行政の考えではなく横断的なサービスを提供していくため、庁舎内連携の構築を図ってまいります。

児童福祉におきましては、2園の保育所で保育を行っていますが、近年乳幼児の減少により各クラスの定数に空きが生じており保育者の人材確保も厳しい状況にあり、保育行政の今後の方向性を検討していきます。

児童クラブ児の昼食時間帯の送迎を令和元年7月より実施し、10月には幼児専用の送迎バスを導入し、かわいらしい送迎バスは子ども達に大人気です。安心と安全に配慮し送迎を継続していきます。

町政運営の基本方針である第4次与那国町総合計画の部門別計画として位置づけられ、他の基幹計画との整合性を図り、「健康増進計画」、「障がい者(児)計画・障がい者(児)福祉計画」、「次世代育成支援行動計画」、「高齢者福祉計画」及び「介護保険事業計画」等との横断的な施策の策定に向け取り組んでまいります。

平成 30 年 4 月より実施している離島患者等支援事業では、特定不妊治療を受ける夫婦、がん患者、子宮頸がん予防接種ワクチンの接種後に多様な症状を呈している患者、小児慢性特定疾病児童、指定難病患者等が島外の医療施設へ通院する際に要する費用負担を軽減し、医療を受ける機会を確保できるよう、引き続き支援してまいります。

### ③ 母子保健・子ども子育て

妊産婦、子育て世代が健やかに安心して子育てができる環境を整えていくため、引き続き少子高齢化対策事業を実施し、妊娠から出産まで島外医療機関を受診する際にかかる費用・新生児聴覚検査に係る費用について一部助成を行い受診者の経済的負担の軽減を図ります。

さらに近年、当町の子育て世代は、転勤世帯・島外出身者で核家族が増加傾向にあり、頼る人が身近にいない等、一人で子育てに悩む親御様に親子同士のふれあいの場として、子育て中の方との出会いの場として、地域で子育てをサポートしていける体制づくりを進めてまいります。

子ども医療費助成事業では、引き続き 0 歳から 15 歳までの乳幼児及び児童の通院、入院費の無償化を実施していくとともに、医療費の現物給付方式に加え、償還払い方式を進めてまいります。

#### ④ 健康づくり

安心で生き生きとした町づくりを推進していくため、各種健診（検診）やイベント等のあらゆる機会をとらえ、また広報誌やホームページ等の情報発信媒体を活用し、住民の健康づくりに対する意識向上と生活習慣改善への行動変容を図ります。

高齢化に伴い増加傾向にある、生活習慣病（高血圧、糖代謝異常、脂質異常）や、ガン、循環器疾患、脳血管疾患等を予防するため、積極的な情報提供や保健指導を行い、同時に早期発見・早期治療のための各種健診（検診）の受診勧奨に努めます。

また、保健福祉分野のみならず、関係機関、団体、スポーツ振興分野との連携を図り、町民の健康保持・増進に努め、ひいては、健康寿命の実現を目指します。

#### ⑤ 食育推進

与那国町食育推進計画に基づき、健康はもとより、地産地消・食文化の継承など多分野に広がりをもつ「食育」が推進されるよう取り組んでまいります。

具体的にはJA・漁協・保育所・幼稚園と連携の【ぶーるし（みんなで）はい！ハイ（食べよう）の日】事業、食育ボランティア・中学校と連携の【15の春 食育教室】等、地域住民をはじめ関係機関・団体と連携した各事業を進めてまいります。

## ⑥ 高齢者福祉・介護予防

超高齢社会を迎える中、与那国町では平成 29 年度から社協と協力し合い、地域支援事業介護予防や生活支援体制整備事業に力を入れ「いきいき 100 歳体操」を行い高齢者が気軽に通える集いの場として、現在では祖納地区に「花ゆりサロン」「すみの会」久部良地区には「アカマチ会」の 3 カ所に高齢者集いの場を設置することができ、以前よりは確実に町民の方たちの意識改革にも繋がっていると感じております。今後は、地域包括支援センターが円滑に活動していくためにも、人材の確保を行い独居のお年寄り・身寄りがいない方・高齢者夫婦・認知症の方等の見守りや成年後見人制度の実施、在宅介護者のサポートが手厚く随時行えるよう取り組んで参ります。

高齢者配食サービスについては、超高齢社会にともない以前よりも利用者が増加しておりますが、これからも日常生活に支障のある在宅要援護老人等に安心して利用していただけるよう努めます。

与那国町においても高齢化が着実に進行し、予防介護が重要な取り組みとなっております。昨年度策定された「第 8 期介護保険事業計画」に基づきこれまでの事業に加え、与那国町地域包括支援センターを中心とし活動して行くために人材確保を行い、与那国町社会福祉協議会と連携を密にし、高齢者が住み慣れた島で安心して暮らせるよう各種介護サービス及び地域支援事業の充実に努めてまいります。

## 4 ゴミ対策

現代社会の生活形態が大量生産、大量消費、大量廃棄という浪費型の生活様式となり、排出されるごみの量も依然として毎年増加傾向にあります。

一般廃棄物につきましては、現在、最終処分場に直接埋め立てていることから、予定よりも早い時期での埋立容量に達することが懸念されます。

平成 26 年度から実施している焼却施設整備事業につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により工事の一時中止等による遅れもありましたが、令和 3 年 7 月の供用開始を目指して参ります。

また、引き続き「一般財団法人家電製品協会」の「離島対策事業」を受け、家電リサイクル法対象の廃家電「テレビ、エアコン、冷凍・冷蔵庫、洗濯機・乾燥機」については、海上輸送費補助を行って参ります。同様に廃車車両等についても同様に助成を行って参ります。本事業により沖縄本島内と同程度のごみ処理負担とすることで、不法投棄防止及び町民の負担軽減を図ります。

## 5 生活基盤の整備

### ① 県道・町道の整備

平成 27 年度に事業採択された県道 217 号線については、地権者や県との連携を密にし、道路利用者の安全が確保できるよう事業推進に努めます。

また、県道 216 号線については、歩道設置事業に着手しておりますが、利用者の安全が早期に確保されるよう引き続き事業進捗の加速を沖縄県に要望し

て参ります。

町道の整備について、祖納部落内線の役場前工区につきましては、引き続き工事着手に向け推進して参ります。また、浦野工区につきましても、前年度に調査実施設計を行い、本年度より工事に着手し令和6年度の事業完了を目指します。

与那国駐屯地周辺道路である樽舞1号線外2道路改良事業については、前年度から工事本体に着手し令和5年度の事業完了を目指します。

また、町道の維持補修につきましては、引き続き点検調査・情報収集に努め、道路利用者の安全が確保できるよう努めて参ります。

## ② 農業基盤整備

畑地かんがい営農の推進にあたり、国と連携しながら地下ダム建設に向けた調査を引き続き実施して参ります。

県営事業による土地改良整備については、早期完了を目指し引き続き支援して参ります。また、鳴仲地区におきましては、教育委員会と連携を図り遺跡発掘調査事業が円滑に推進できるよう支援して参ります。

団体営立田神地区ため池改修事業につきましては、擁壁及び底版設置工事等を引続き実施し、本年度での事業完了を目指します。

新規事業におきましては、上里地区について県と調整を図っており、地権者の同意を得ながら令和3年度新規採択を目指して参ります。また、満田原地区、



樽舞地区、立田神第2地区につきましても、営農計画の策定や地権者の同意を得ながら、引き続き新規採択を目指して参ります。

### ③ 港湾整備

祖納港につきましては、船尾岸工事を令和3年度より着手し、船舶利用者の安全な航行が行えるよう、今後も県と調整を図りながら令和4年度の竣工を目指して参ります。

### ④ 水道整備

簡易水道事業につきましては、老朽化が著しい水道施設の基幹改良を実施して参ります。

また、水道施設の維持管理や水質管理を十分に行い、引き続き安定した水道水を住民に供給できるよう努めて参ります。

### ⑤ 定住促進

平成24年度から実施している町営住宅の建替え事業を引続き実施し、快適で安全性を確保した住宅の整備に努めて参ります。

本年度は、祖納第一団地新築工事を実施し、さらに公営住宅等長寿命化計画が平成23年度作成から本年度で満期となりますので更新を行い快適で安全性を確保した町営住宅の維持管理を努めて参ります。

昨年度入札不調により繰り越した「与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画」に基づきシニア層を狙いとした、古い建築技術と現代の建築技術を融合させた古民家の建設を進めて、Iターン者が島内で安定した移住・定住体験ができる住宅の提供に努めてまいります。

## ⑥ 空港の整備

当町の航空路は、住民の生活や都市との交流、観光等にとって重要な交通手段であり必要不可欠で大きな役割を担っております。

当空港ターミナルは、昭和62年に新設し平成6年に増築され30有余年が経過しております。

地理的に海岸沿いの低位置に立地しているため潮害、風害も重なり劣化が著しい中、修繕を重ねながら機能維持管理に努めている状況にあります。

当空港は、現在誘導路1、エプロン1、スポット2で1日8本の民間の定期便と海上保安庁、自衛隊等の航空機及びヘリコプターが就航しております。

航空会社としては、搭乗等の際、乗客を安全に誘導する立場にありますが駐機中の民間機の隣に急患及び輸送用大型ヘリコプターが隣接するスポットにエンジンの掛かった状態で駐機するため、爆風で乗客が煽られる、そのため乗客を誘導する事が出来ず、航空機の運用に大変支障を来している状況にあります。空港利用者の安心・安全確保・機能拡充・利便性の向上を図ることが難しい現状にあります。

このような現状を改善するため、ターミナルの改築並びにヘリコプター用誘導路及びエプロンの増築を事業化へ向け引き続き国、県へ要請して参ります。

## 6 ICT利活用の促進

平成 28 年に離島地区海底光ケーブルが敷設され、同時期にLTEサービスが開始されたことにより、安定した固定高速通信が整い令和元年12月から庁舎内の住民サービス系システムのクラウド化が仮稼働、令和2年4月から本稼働が開始されました。現在まで安定したサービスを提供しております。

与那国町フリーWi-Fiは令和2年7月からサービスを開始し、現在21か所の観光地、学校などの主要施設で稼働中です。観光客の利便性を高めるとともに、町民も安心して使える通信環境が構築され情報格差の是正が図られつつあります。

学校教育現場では、昨年度、「GIGAスクール構想の実現に向けた計画」を策定し、ハード・ソフト・人材が一体となった学びの環境整備を行ってまいります。当町の教育の質の向上に繋げていき、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現します。

## 7 消防・防災

### ① 救急業務・火災予防

119番通報体制も、町民のご理解のもと着実に定着してきたと認識してお

ります。また、救急搬送業務についても緊急携帯電話の輪番制が定着し、業務の向上に繋がっています。

与那国町消防団は、消防操法や技術向上等、非常備消防ならではの課題があります。今後は、地域を知る公民館等と連携し、民間人の消防団員を広く募集し、災害時に適切な消防活動ができる体制づくりに努めてまいります。また、適切な定数を維持し、消防団員の技術向上のための訓練及び教育等の充実を図ってまいります。

## ② 防災・災害対策

与那国町防災訓練は、災害対策本部の立ち上げから被災の状況確認、被害の把握方法などの図上訓練を中心に自衛隊とともに実施いたします。引き続き、住民参加型の住民避難、炊き出し訓練等の実施を計画いたします。

防災行政無線につきましては、デジタル化に移行してから1年が過ぎましたが、引き続き、住民及び観光客へ瞬時の防災情報の提供に努めてまいります。

## ③ 国民保護

市町村は、複数の避難実施要領のパターンをあらかじめ作成しておくよう努めることとされていることから、現在、消防庁や海上保安部、警察、自衛隊などと連携しながら進めている状況であり、各種事態に備えた避難実施要領を作成いたします。

## 8 行財政改革推進

### ① 人材確保

住民サービスの多様化、事務量の増大、複雑化を勘案し、職員一人一人の事務量、職員数の適正化を把握し、適正な定数確保、人事配置に取り組んでおりますが、近年、町役場職員採用試験への応募者が少なく、定員割れの状態が続いております。今後は、町内外から優秀な人材確保を進めていきたいと思っております。令和2年度から与那国町が幹事団体となって取り組んでいる「沖縄県離島町村職員採用共同試験」の実施については、本町を含め4団体で実施に向け検討を行っているところです。本年10月下旬に那覇市内において共同で職員採用試験を実施するとともに、本町でも同日に試験を実施し、幅広く人材確保に努める所存でございます。

### ② 税収の確保

町税については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度の固定資産税へ軽減措置が実施されることから、税収の確保及び税負担の公平性を図るため、引き続き今年度も沖縄県税務職員に対する町税務職員への併任辞令を発令し、徴税職員の徴収技術向上に資することを目的として、専門知識を有する県税職員の指導を受け、滞納者の滞納処分を実施して参ります。

また、令和3年度も引き続き、沖縄県、石垣市、竹富町、及び与那国町税務職員の相互併任手続きを行い、滞納搜索の経験が豊富な、他市町職員と共に搜

索を行うことで、本町の搜索ノウハウの向上を図ってまいります。

自治体連携取組の強化を図り、共同で滞納処分を実施することにより、圏域内の納税意識が向上することを期待しております。

## 9 新庁舎建設

現庁舎は、築後50年が経過しており、外壁や天井が崩落するなど顕著な老朽化が進んでいます。万一の大規模地震の際、どのようにして人命の安全を確保し、行政機能を維持するかなどの対策が差し迫った課題となっております。

そのような状況を踏まえ、新庁舎の位置は、防災・安全性、利便性を十分満たす立地であるとともに、町内における人口の分布や、公共施設の配置状況を考慮し、実施設計に取り組んでまいります。

## むすびに

令和3年度の町政運営にあたり、私の基本姿勢と、所信の一端を申し述べてまいりましたが、これらの諸施策を執行するにあたりましては、職員とともに、全力で取り組んでまいります。町民の「安心・安全」を重要課題と位置づけ、常に、「責任ある使命感」をもって、町政運営にまい進する所存であります。

令和3年度当初予算編成にあたっては、最終年度を迎える一括交付金をはじめ、国県補助金の確保に努めるとともに、限られた財源を計画的、且つ、効率的に配分することを基本に、予算編成を行いました。

その結果、令和3年度予算については、以下に編成し予算案を提案する次第であります。

---

一 般 会 計 予 算 . . . . .	3,457,557,000 円
国民健康保険事業特別会計予算 . . . . .	247,262,000 円
簡易水道事業特別会計予算 . . . . .	143,320,000 円
介護保険事業特別会計予算 . . . . .	146,389,000 円
農業集落排水事業特別会計予算 . . . . .	27,448,000 円
漁業集落環境整備事業特別会計予算 . . . . .	6,919,000 円
後期高齢者医療特別会計予算 . . . . .	10,422,000 円
予算総額 . . . . .	4,039,317,000 円

---

具体的な内容については、予算審議の際、ご説明申し上げます。

町民の皆様、町議会議員並びに関係者各位の一層のご理解、ご協力を賜り、課題山積の難局を、町民の皆様と共に乗り越えることができるものと確信しております。

伏してお願い申し上げます、私の施政方針といたします。

令和3年3月8日

与那国町長 外 間 守 吉

